

硫黄鳥島

○ 概況（平成 16 年 8 月）

硫黄鳥島(27.88 ° N、128.22 ° E)の南東約 65km にある沖永良部島の住民から、7 月 30 日午前中同島で硫黄臭が感じられたとの通報がありました。また、8 月 3 日夕方、同島から硫黄鳥島の方に噴煙が見えたとの目撃情報もありました。

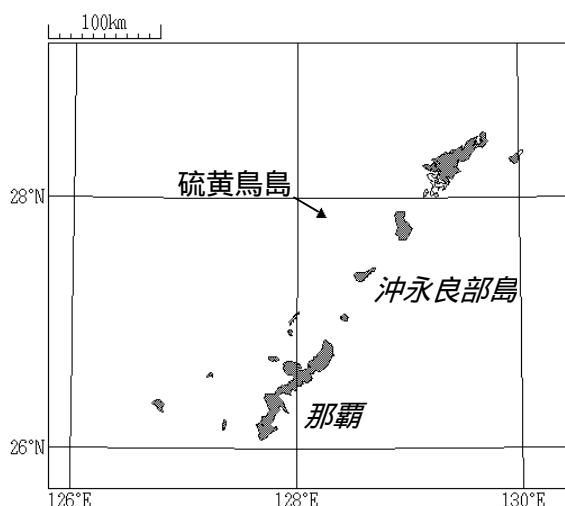
4 日に海上保安庁第十管区海上保安本部が上空から観測を実施したところによると、島の北側及び中央部の噴気孔から白色の噴煙が上がっており、うち北側の噴煙は火口縁上の高さ約 400m まで上がっていました。島の周辺の海域に変色水はみられませんでした(図 1)。

その後、海上保安庁が 6 日行った観測では依然噴煙がみられましたが、23 日には噴煙活動は非常に穏やかな状態になっていました。

沖永良部島での硫黄臭については、7 月 30 日、硫黄鳥島上空では北西～北北西の風が吹いており、硫黄鳥島の火山ガスが流されて発生した現象であった可能性があります。



図 1 硫黄鳥島 噴煙の様子（2004 年 8 月 6 日）写真左が概ね北 島の長径は約 2.7km
主な噴煙は北側の火口から噴出（海上保安庁提供）



硫黄鳥島は、那覇市の北北東約 190km、沖永良部島の北西約 65km に位置する火山島である。以前より複数の硫気孔と噴気活動が認められている。有史後の噴火はいずれも爆発的で、20 世紀中には 1903 年、1959 年、1967 年及び 1968 年に噴火がある。1903 年には全島民が一時久米島に移住し、一旦帰島したものの 1959 年の噴火で再度全島民が島外に移住、1967 年の噴火で硫黄採掘者も撤退し、現在は完全な無人島である。